



シカとの 共存のために

シカの増加と分布の拡大で生態系にも影響が出ています。植物とそれに依存している動物の減少や地域的な絶滅が危惧されています。捕獲しやすいところでむやみに捕獲しても効果は限定的で、捕獲法によっては警戒心の高いシカを作るだけです。行政と専門家、捕獲者による計画的で組織的な捕獲や防除、モニタリングを含めた科学的で総合的な中長期計画と実行が必要です。

[南 正人]



軽井沢の四季彩便り 52

『コオニユリ』

写真・文 渡辺 久義(会員)

あっちには真夏の太陽が良く似合う。照りつける陽射しに負けじと橙緋色の花を咲かせているであります。軽井沢の風に揺られ地上の生命に向って仄かな香気を放ち、青々とした草原にスラッと立つ姿は見返り美人。鬼と呼ばれておりますが人も時には鬼になる。怒り、妬み、悩み、そして酒。赤ら顔して今宵も街吹く風に千鳥足。見た目は鬼と呼ばれても立ち振る舞いは艶やかに、そして心は軽やかに生きるであります。おさらばえ。

軽井沢サクラソウ会議

記録&予定《記録○(5~7月) 予定●(8月~9月)》

8月~9月

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○5月1日(木)~31日(土) サクラソウ全町調査開始 ○5月10日(土) 環境課主催「サクラソウ シンポジウム」 ○5月11日(日) 「野の花さんぽ」① ○5月31日(土) 発地トレジャーハンティング② カエル初夏 ○6月7日(木) 環境ネットワーク主催 オオハンゴンソウ駆除 ○6月12日(木) 植物標本事始め② ○6月13日(金) モニタリング1000里地調査③・総会 ○6月14日(土) 第6回タリアセン自然講習会 ○6月15日(日) 「ちいき活動見本市」 ○6月28日(土) 発地トレジャーハンティング③ チョウ ○7月11日(金) モニタリング1000里地調査④・定例会 ○7月12日(土) 「野の花さんぽ」② | <ul style="list-style-type: none"> ○7月13日(日) 「自然観察ながの」研修・交流会 ○7月19日(土) 発地トレジャーハンティング④カエル盛夏 ●8月7日(木) 13:30~15:30 植物標本事始め③ ●8月8日(金) 9:00~ モニタリング1000里地調査⑤
14:00~ 定例会・ミニ講座 ●8月9日(土) 13:30~15:00 「野の花さんぽ」③ ●9月11日(木) 13:30~15:30 植物標本事始め④ ●9月12日(金) 9:00~ モニタリング1000里地調査⑥
14:00~ 定例会・ミニ講座 ●9月13日(土) 10:00~12:00
発地トレジャーハンティング⑤ 植物の不思議
13:30~15:00 「野の花さんぽ」④ |
|--|---|

CONTENTS

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1 巻頭言／『軽井沢の四季彩便り』52 / 記録&予定 2 カエルのくらし~初夏編~・サクラソウ全町調査が終了 3 オオハンゴンソウ駆除・ちいき活動見本市・環境シンポジウム 4 発地トレジャーハンティング カエルのくらし~初夏編~ | <ul style="list-style-type: none"> 5 高槻成紀先生の講演「シカ問題に取り組んで思うこと」 6 馬取山田地区ほ場整備事業への取り組み 7 農と草 農業体験と言う名の自然観察会をやってみた 8 コラム5 / 事務局から |
|--|---|

第2回「発地トレジャーハンティング カエルのくらし～初夏編～」

講師は、第1回と同じ石塚徹先生です。参加者のみなさんとカエルの声が響き渡る夜の田んぼ探検へ！

暗闇の中…カエルの声に耳を澄ますと…いくつかの音が…ニホンアマガエル、シュレーゲルアオガエル、トウキョウダルマガエルの3種類のカエルの声です。太い声のゲゲゲ、軽めのコロコロ、いちばんよく聴くゲゲゲッ…一緒に鳥の声も聴こえてきました。



夕闇迫る発地の
田んぼに行く参加者



土手のシュレーゲル
アオガエル卵の塊
(赤印の横の白い丸い塊)

田んぼへ目を下ろすと、小産のシュレーゲルアオガエルの卵が。泥や草を掘って、土中に白い泡状の卵を産卵するようで、よく見ると…小さいオタマジャクシの姿が泡の中に見えました。孵化した時は真っ白との事で、泡の中で暫く過ごし、梅雨の降雨で田んぼへ流れ込んでいくとの事でした。

このシュレーゲルアオガエルと違い、多産のヤマカガエルは日当たり良い止水の水たまりに沢山卵を生んでも、水場が干上がってしまうと死んでしまうことも多いそうです。トウキョウダルマガエルは、水場から離れない性質があるので、水田がなくなると生きていけなくなり、絶滅危惧種になってしまったとの事でした。

カエルの他にも水生昆虫、絶滅危惧種の生物も水生生物も観察できました。軽井沢の田んぼ、自然の豊かさを体験し、昔は当たり前の様にいてくれた生物達が、懸命に生命を繋いでいっていることに感謝の気持ちでいっぱいになった観察会でした。ありがとうございました。

[小清水聡美]

サクラソウ全町調査が終了

2025年5月の1ヶ月間、サクラソウ全町調査が行われました。多くの方々に多大なご協力頂き無事終了することができました。厚く御礼を申し上げます。



シンポジウム会場周辺でのサクラソウ観察会（案内役は今城）

2015年のサクラソウ自生地を中心とした詳細調査は、会員ら16人の調査チームで実施しました。多数の自生地を確認することができましたが、一方で、開発により自生地が消失した場所も確認しました。

5月10日には軽井沢町環境課主催によるシンポジウム「町花サクラソウ、私たちが絶滅危惧種を守るために」が開催され、約30人が参加しました。その中で会員の中村千賀さんがサクラソウ全町調査を参加者に紹介し、「軽井沢に眠るサクラソウを探そう」と呼びかけました。このイベントを始め、ホームページ、SNS、軽井沢新聞を通じて、様々な方に呼びかけた結果、5人から16ヶ所の新たなサクラソウ情報を頂きました。ありがとうございました。

お陰様で、行政の賛同を得て、広く町民の方々に関心を持って頂くことができました。軽井沢の豊かな自然を大切にする心の輪が広がったと感謝しております。今後、得られた結果を十分に検討し、これからの自然保全に活かして参ります。

[伊藤良則]

6/7 新しい段階に入ったオオハンゴンソウ駆除活動



作業開始前に、オオハンゴンソウについて説明する須永代表

上信越道碓氷軽井沢インターチェンジを出て、カーブの続く下り坂が和美峠へ入る丁字路近くに現場はあります。数年前サクラソウ会議の有志で駆除にあたったことがあり、その後も事業者が作業に入っていたようですが、毎年6月頃には黄色い花が多数みられる場所となります。

今年は町の環境課が呼びかけ、サクラソウ会議、環境ネットワーク、建設業協会、町役場ヤングドライバークラブの4団体、合計89名が参加した協同作業となりました。

数百メートルに及ぶ駆除区間を、スコップとゴミ袋を持って3班に分かれ、まだ開花していないオオハンゴンソウの判別に手こずることもありましたが、次第に慣れてきました。3時間の成果は、ゴミ袋にして122袋、約790kgにもなりました。

町の呼びかけでこんな多人数で駆除をしたことは初めてです。まさに「新しい段階に入った駆除活動」といえます。これを機に軽井沢町が特定外来生物として駆除を呼び掛けている、オオキンケイギク、アレチウリにも同様な駆除活動を広げてもらいたいと思います。

[一色達郎]



6/15

ちいき活動見本市



サ会議の活動の目的や活動内容の展示 中央公民館にて

長野県NPOセンターから取材を受けるサ会議の代表須永さん



5/10 環境シンポジウム

5/10土曜日、軽井沢町環境課主催で『町花サクラソウを含めた絶滅危惧種、希少種の現状についてのシンポジウム&サクラソウ観察会』というイベントが開催された。歴史民俗資料館の下に車を止め、会場のギャラリー蔵まで下る斜面のあちこちに、ピンクのサクラソウが。我々の住む軽井沢町は何と素晴らしい自然環境なのでしょうか。

登壇者は現町長になってから就任した植生学専門員の蛭間氏、植物園の新井園長、サクラソウの専門家の中村千賀さん。私の注目は蛭間氏、どんな方でどんな話をするのか。生物多様性保全について論理的に語り、地域の固有性は歴史的遺産であること、希少種のみならず生育環境を守ること、などを話されました。質疑応答で聴講者から、(埋蔵)文化財保全の法的仕組みの例について尋ねられると、現状自然環境保全はそうっていないので、社会の仕組みを変えていきたいという、心強い考えを述べられました。

現在環境課はレッドデータブック作成を進めています。実効性のある施策が期待されます。

[越前谷暢晃]

4/12 第1回「発地トレジャーハンティング カエルのくらし～早春編～」

穏やかに晴れ渡り浅間山がきれいに見える。参加者がやって来るにつれ活気づいてくる。講師はあーすわーむの石塚徹さん。コースの距離と時間を考慮し、スタッフの車に乗り移動する。

発地には6～7種類のカエルがいるそうだ。

発地のカエルの春はヤマアカガエルから始まる。春から秋の間、山の中で散らばって生活をしているヤマアカガエルは、秋の終わりに落ち葉のベッドの中や水の底で冬眠をする。早春になると生まれ育った水辺へと一斉に帰って来る。



田んぼに水たまりに産み付けられたヤマアカガエルの卵を観察

この様子を紙芝居でお話していただいた。乾燥に弱いカエルたちは雨の夜ピョンピョン水辺へ向かう。昼間や晴れの夜は物陰に体をひそめ雨の夜を待つ。これを石塚さんは『だるまさんころんだ』で表現されていた。雨の夜は『だるまさんころんだ』で一斉に跳ねる。昼間や晴れの夜は動かずじっとしている。これを繰り返し水辺に到着する。

成熟するまでの期間は、オスが2年、メスは2年から3年かかる。メスは多くの卵を持てるように年数をかけてでも、オスよりずいぶん大きくなる。オスは性成熟（繁殖開始年齢）が早いメスよりずっと数が多い。そしてオスが先に水辺に集まって来る。オスは争い強い者がいい場所を陣取る。メスは条件のいいところにやって来れば、強いオスと巡り合えるわけだ。

スニーカーの話は面白かった。オスは集まるとメスと呼ぶために「キャラ・・・」もしくは「クク・・・」と聞こえる鳴き声でアピールする。し

かし鳴かずに待っているオスがいる。スニーカーだ。みんなが鳴いているのなら鳴かないでもいい。ところが全員鳴かなくなるとメスも来ないので、仕方なくスニーカーも鳴く。どのカエルもスニーカーをするらしい。

他にも優位なオスの脇から花嫁を横取るオスの話。故郷の水辺に戻らず他の池に行ってしまう個体の話など、いずれも遺伝子の多様性に関係する興味ある話だった。

ヤマアカガエルを見せてもらった時、オスの親指の付け根にある「抱きつきだこ」を見た。交尾の時、オスはメスの背中に乗るように抱きつく。一度抱きつくと絶対に離れないよう「抱きつきだこ」がメスの体に食い込む。すごいものを発達させたものだ。

第1ポイント、流れのない水路の上から覗いて卵を探す。卵塊を自然の状態で観察してから、水槽に入れて間近で観察した。丸いゼリーの中に黒